

普及活動情勢報告（令和2年2月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

地域をアピールし、ユズを中心とした就農を勧める ～土佐山柚子生産組合が「新・農業人フェア」で就農相談～



土佐山の就農相談ブース

1月25日、池袋サンシャインシティにおいて、「新・農業人フェア」が開催され、普及所は、生産者2名と一緒に就農相談を行いました。

相談会では、関東周辺への就農希望者が多い中、6組7名の相談者にブースに来てもらい、ユズでの就農の内容をはじめ、自然や教育など土佐山地区の特徴を説明しました。相談者の中には、ユズ栽培に興味を示す方もおり、地域の情報を送るなど、今後関わりを持っていくこととなりました。

普及所は、引き続き生産者、関係機関と協力して、担い手確保対策を実施していきます。

ユズ産地の将来のために ～基盤整備事業の勉強会～



勉強会の様子

2月10日、普及所で高知市土佐山ユズ生産組合に対し、基盤整備事業の勉強会を開催し、役員9名が参加しました。中央西農業振興センターの松岡所長を講師に、同じユズで行った北川村の基盤整備の事例について説明し、その後意見交換を行いました。役員から土佐山は北川村よりも急峻なので、どんな圃場整備ができるのか、などの質問がありました。

普及所は、R2年度早々に、基盤整備担当者とともに、ユズ圃場現地を巡回し、事業導入の可能性を探っていく予定です。

地域にあった型にはまらない組織づくりを！ ～鏡地区の農業を考える集い（移動農業委員会）～



移動農業委員会の様子

2月12日に、中山間地域構造改善センターにおいて移動農業委員会が14名の参加で開催され、普及所から「今後の集落営農の進め方」について提案を行いました。

実例として（農）梅ノ木ファームや久万川集落協定営農組織など4組織の取り組みを紹介しました。そして、集落の課題を解決するため、鏡地区ならではの林業分野も含んだ組織づくりを提案しました。出席者からは、設立に必要な人数や事業の活用など熱心な質問がありました。

普及所は、関係機関と協力しながら、集落営農を中心とした中山間地域を守る仕組み作りを行っていきます。

潜んだリスクを見つけて改善！～集出荷場 GAP 点検～



ここにもリスクがあるのでは？

2月13日、JA高知県春野集出荷場でGAP点検を行いました。春野集出荷場では、現在2ヶ月に1回JA販売課、営農販売事業本部、普及所が集まり、GAP実施状況の確認や潜在リスクへの対応の検討をしています。今回の点検では、毎日予冷庫の温度チェックをしていたことで、表示の不具合が起きた時に対処できていたことが分かりました。また、出荷調整中に汚染や異物混入、労働事故のリスクが考えられる箇所をピックアップし、改善の必要があるか、どのような対策が有効か等を検討しました。今後も普及所は、GAP点検を通して、集出荷場の継続的な改善の支援をしていきます。

加工の実践に向け、基礎的な知識を吸収 ～高知市梅ノ木地区で6次産業化の集落営農塾開催～



集落営農塾

2月16日、普及所は、高知市鏡梅ノ木公民館において、農産物マーケティング戦略課の門田専門技術員を講師に、集落営農塾（6次産業化）を12名の出席で開催しました。前段で、コンニャクをはじめ試食6品を作成。みんなで簡単な評価を行いました。後半は、試作品の講評も含め、加工の基礎的なところから、県内の実例をあげながらの講演となりました。今後、梅ノ木地区での加工活動について、具体的な検討が開始されます。普及所は生産者・関係機関と連携し、加工の具体的内容や施設等の整備について議論を進めます。

モデル農家の収量アップと環境データの見方を学ぶ ～環境制御技術アドバイザーによるサポート事業の活用～



個人面談は栽培状況も見ながら

春野胡瓜部会は、環境制御技術アドバイザーにより、モデル生産者が指導を受けています。2月19日、アドバイザーである（株）デルフィー日本の麻生氏を招き、モデル生産者の個別面談と、生産者12名の参加の下で現地検討会及び意見交換会を行いました。普及所からは、生育状況を説明し、準備しておいた環境データを基に、実際の管理を振り返りながら温度や飽差管理について、熱心な意見交換がなされました。今後とも普及所は、産地全体への環境制御による増収効果の拡大を目指し、JAと連携して支援を行っていきます。